

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふつうに暮らせるしあわせ」の理念に基づき、おらちでの生活の充実を支援しています。	事業所独自の理念を掲げ、職員に理念を浸透できるようにアンケートを行うなどし、理念を確認する機会を設けています。また、理念の実践ができるようにユニット目標も設定しているほか、職員毎に個人目標も設定し、達成度の振り返りも行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は歩いて買い物に出掛けたり散歩して挨拶している。また、今年は町内の回覧板を回してもらえるようになった。	町内の方に清掃ボランティアに来ていただいたり、中学生の体験学習を受け入れたり、町内のふれあい活動や防災訓練、クリーン活動にも参加するなど、地域との交流が心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で日常の活動や支援を伝えている。また、中学生職場体験事業の受け入れなど行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。グループホームでの活動、状況を報告し頂いた意見を改善に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長、班長、市の担当者、ご家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂くほか、市で行う研修等に参加している。	市の担当者及び地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、アドバイス頂いているほか、困難事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に研修を行い、安易な行動抑制を行わないように検討している。	事業所にて身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、玄関の施錠も夜間のみとし、言葉の遣い方についても職員会議で指導を検討するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症の理解を含め、定期的な研修を行う他、市で開催された不適切ケアの研修にチームで参加するなど虐待防止に努めている。	身体拘束研修と同じく、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用している方がおられ、必要に応じて連絡したり、必要な方には利用できるように相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書、重要事項説明書に添って説明を行い分からないことがあれば丁寧に説明を行い契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、年度末にご家族へのアンケートを行い、運営推進会議で意見交換を行っている。また、苦情等があれば運営推進会議で報告している。	運営推進会議の場だけでなく、面会時やホームのバーベキュー大会や新年会などのご家族が集まる機会に気付いたことや要望は無いか確認しています。また、年に1度はご家族にアンケートを送り、意見・要望の確認を行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議で意見や話を聞くほか随時、相談を受けている。他、年2回職員と面談を行っている。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の全体会議やユニット会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。また、年に2回は管理者が職員との個人面談の機会を設け、率直な意見を収集できるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得による各種手当や処遇改善加算の算定など行っている。また、実績などの評価により給与のベースアップが決まる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の事業所内の研修、事業部での決められた研修を行うとともに外部研修の参加も進めている。研修終了後に教育報告書に成果を記入して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修での実習生の受け入れや他の事業所からの実習依頼を受け入れている。他、デイサービスへの出掛け実習も行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い、ご本人の状況確認も含め本人から話を伺っている。また、ケアマネや他の事業所から情報収集を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の段階でサービスの積極的な情報提供を行い丁寧に話を伺い不安に対して相談を行い、入居時に担当者と話し合いを行いサービスの内容について話し合いを行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの利用が適切かを含め相談している。また必要な支援があれば介護保険サービス以外も含め紹介・連携を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、洗濯、買い物等の生活の中で職員と共に協力し合い生活している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでもご家族と面会、外出できるほか、ご家族と相談しながら本人の生活を支えている。また受診や衣服の補充など出来る支援をお願いしている。	事業所広報を月に1度送付しているほか、ご利用者の生活の様子や身体状態の様子を担当職員がまとめ、毎月お送りしています。日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	担当職員から毎月お送りしているお手紙の内容が、職員間で差があると思われるので、記載内容について検討する機会を設けられることを期待します。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望する床屋さんに送迎したり、ご家族や知人が訪問されている。8月には家族交流会でバーベキュー大会を行った。	ご家族にもご協力頂き、直江津の朝市に出かけたり、馴染みの床屋へ出かけたり、お墓参りに出かけたり、特別養護老人ホームに旦那さんに面会に出かける等、今までの関係継続支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	協力して掃除、調理を行う他、食事やオヤツはテーブルを囲んで食べるなど関わりを持つ事が出来る。時間が空いている時は利用者同士でカルタ取り、カラオケをするなどして楽しんでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供・相談・支援を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話・行動・表情等を把握し本人の意向に添った支援が出来る様に職員で話し合いを行っている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、認定更新時または本人の状態に変更があった時にアセスメントを行い状況把握に努めている。	契約時にご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴やなじみの暮らし方を確認しています。また、年に一度は定期的なアセスメントシートを更新する機会を設け、職員間でも情報が共有できるようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホーム日課表を作成し1日の活動の中で本人ができる事と支援が必要なことの把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認定更新や必要に合わせて担当者、本人、ご家族で話し合いを持ち意向やサービスの内容について検討している。	基本的には、ご利用者、ご家族にもサービス担当者会議に出席して頂き、介護計画を作成し、必要があれば月に1度のユニット会議のカンファレンスで介護計画の見直しを行っています。	調査時点で、モニタリングの日付が誤っていたり、介護計画の作成日が誤っている方もいましたので、改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別計画のチェックや目標期間に合わせてモニタリングを行い、カンファレンスで情報共有を行うとともにケース記録に記録している。また、ユニット会議録にも残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアで職員と食事に出たり、美容院、ドライブに出る事がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のクリーン活動、ふれあい活動に参加している。また、避難訓練に地域から協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族が希望するかかりつけ医の受診が原則になっている。医療機関への情報提供はご家族の了解が基になっている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた書類を渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はない。必要があればかかりつけ医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の了解をもとに医療機関と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りを行っていないことを問い合わせ時、契約時に行っている。また、ホームで対応が困難になった時に早い時点でご家族に相談しご家族の意向を確認した上で援助を行っている。	契約段階で管理者はホームの方針を伝えていきます。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所にAEDの設置を行った。また、AEDの講習会や心肺蘇生法を年1回、全職員が研修に参加している。救急マニュアルを事務所に掲示している。	毎年1回はAEDの使用や異物除去、心肺蘇生の講習を受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と町内の自主防災訓練に参加している。防災マニュアルを作成し全職員に周知している。	定期的に火災を想定した避難訓練を行っており、地域の方にも参加して頂いています。また、地震を想定した町内の防災訓練に参加したり、災害時に備えた非常用の食品や水も確保されていました。	火災を想定した避難訓練のみならず、緊急時の駆けつけ訓練も行うなどし、災害時に適切な対応ができるようにされることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレは出来る方は本人に任せている。支援の必要な方には職員が付き添いプライバシーに配慮して支援している。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についてもすべてのご利用者に確認を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物時、品物を選んで頂いたりおやつはどれがいいか聞いて購入している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつ、ラジオ体操の時間以外は居室で過ごす等自由になっている。希望を聞き散歩や買い物に出掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選べる方には本人に任せている。散髪は職員と理美容に出掛けてカットしている。毛染めを希望する方には職員で染める手伝いをする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立やおやつは当日に利用者と一緒に決めている。利用者と協力して食事づくりや配膳を行い、洗い物や茶碗拭きを一緒に行っている。	ご利用者にも出来る範囲で調理や後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でもなすやピーマンなどの野菜をつかっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。ご利用者の要望に合わせてお寿司や焼き肉の外食にも出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせ、形態、量、材料の変更を行っています。午前・午後とお茶の時間をもうける他、外出後、入浴後にもお茶を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後3回の歯磨きを行い、良く磨けない方には職員で磨きなおしています。また入れ歯の洗浄等の支援もしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状況によりトイレ誘導やパットの確認を行っています。また、排泄量によりパットを選び負担の軽くなるようにしています。衣服の引き上げなど出来るだけ自分で行ってもらえるように支援します。	入居時には全てのご利用者の排泄パターンを把握し、支援が必要な利用者には排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の歩行訓練を行い、天気の良い日は外に出て散歩するなど運動に心がけています。また野菜を中心にメニューを立てる等工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1度の入浴になっていますが、毎日入浴を希望する方や必要な方には毎日入って頂けます。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。ご利用者と一緒の日帰り温泉に行き、入浴を楽しむこともありました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールに出て来ていただき日中の活動をして頂きますが、いつでも居室に入り休むことが出来ます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングしていつでも見られるようにしています。主治医にお願いして出来る限り一包化をお願いし間違えの無いように本人に渡しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読んだり、パズル、手芸など興味のある活動が出来る様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物・散歩に出掛けている。月1回の外出行事で利用者に喜んでもらえるよう企画している。またご家族と一緒に外出できるよう支援している。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、散歩へ出かけたりもしています。また季節に合わせたお花見やあじさい見学、ぶどう狩りや紅葉見学などの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かり、本人の必要に応じて一緒に買い物に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を貸し出したり、本人宛に荷物が来た時は開けて頂き本人に電話を替わり話す機会を提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンからホール全体が見渡せるようになっている。壁には行事の時の写真や季節の壁飾りをしている。トイレ・洗面台はホールの隅に配置されている。	居間と食堂、オープンキッチンがワンフロアとなっています。テレビを囲むようにソファがあり、季節に合わせた飾りをしたり、行事の写真を張るなどして居心地良く過ごせるような配慮がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座りテレビを観たり、テーブルを囲み利用者同士で話ができる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に入る範囲で自分の使っていたものを持ち込めるようになっている。	居室には、ベッドやテレビ、時計などの使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾ったり、マッサージ機を購入するご利用者もあり、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール1周に手すりの設置がされて壁伝いに居室、トイレに行けるようになっている。本人の状況に応じわかりやすいように花・ぬいぐるみを設置している。		